ケル時ニ、蜂飛テ去ニケリ、其後一兩日ヲ經テ大キナル蜂一ツ飛來テ、御堂ノ檐ニフメキ行ク、其レニ次ギテ、何コヨリ來ルトモ不見エデ、同程ナル蜂二三百計飛來ヌ、其蜘蛛ノ網造タル邊ニ皆飛付テ、檐垂木ノ迫ナドヲ求ケルニ、其ノ時ニ蜘蛛不見ザリケリ、蜂暫ク有テ其ノ引タル糸ヲ尋テ、東ノ池ニ行テ、其ノ□□ヲ引タル蓮ノ葉ノ上ニ付テ、フメキ喧ケルニ、蜘蛛其レニモ不見エザリケレバ、半時計有テ、蜂皆飛去テ失ニケリ、〇略中蜂共飛去テ後ニ、法師其ノ網ノ邊ニ行テ檐ヲ見ルニ、蜘蛛更ニ不見エザリケレバ、池ニ行テ其ノ引タル蓮ノ葉ヲ見ケレバ、其蓮ノ葉ヲコソ、針ヲ以テ差タル樣ニ、隙モ无ク差タリケレバ、然テ蜘蛛ハ其ノ蓮ノ葉ノ下ニ、蓮ノ葉ノ裏ニモ不付テ、□□ニ付テ不被螫マジキ程ニ、水際ニ下テコソ有ケレ、蓮ノ葉裏返テ垂數キ、異草共ナド池ニ滋タレバ、蜘蛛其ノ中ニ隱レテ蜂ハ否不見付ザリケルニコソ、〇略中蜘蛛ノ、蜂我レヲ罰ニ來ラムズラムト心得テ、然テ許コソ命ハ助ラメト思得テ、破无クシテ、此ヲ隱レテ命ヲ存スル事ハ難有シ、然レバ蜂ニハ蜘蛛、遙ニ增タリ、預ノ法師ノ正シク語リ傳ヘタルトヤ、

〔牛馬問二〕東武深川に、本誓寺といふ寺有、〇略中池上の樹間に、大なる蜘蛛の、いとはかなくもかけ渡る有樣に、浮世を觀じながめたるに、一ツの蜂飛過る、あやまつて蜘蛛の家にかゝる、蜂は羽うつて逃んとし、くもは糸をちらして繫んとす、暫く挑鬪ひしが、竟に蜂はにげ去ぬ、蜘蛛は破たる家を捨て、直に池中に下り、荷葉に落て、其荷葉を廻る事、幾度といふ事をしらず、見るうちかの荷葉次等々々にしぼみよりて、其かたち括囊のごとし、くもは其うちに入て、見る事なし、其間に數万の蜂むれ來る事、霧の降るに似たり、〇略中蜂池上にみちて、色目を不分、暫く有ていづちともなく散失ぬ和尙又庭中に出て見るに、右括囊の如くなる荷葉、蜂螫てそのあと、生絹の如し、斯あるうへは、此郭に籠るとも、此くもの命たすかるべきにあらずとおもひ、彼囊のごとくなる荷葉を穿て見れば、蜘蛛は糸を下し、其身空中に懸り居たれば、何の恙もなくてあ